

2章 男性の成育歴と子育て参加頻度との関係

1. 対象者の父親の家事・育児参加との関係

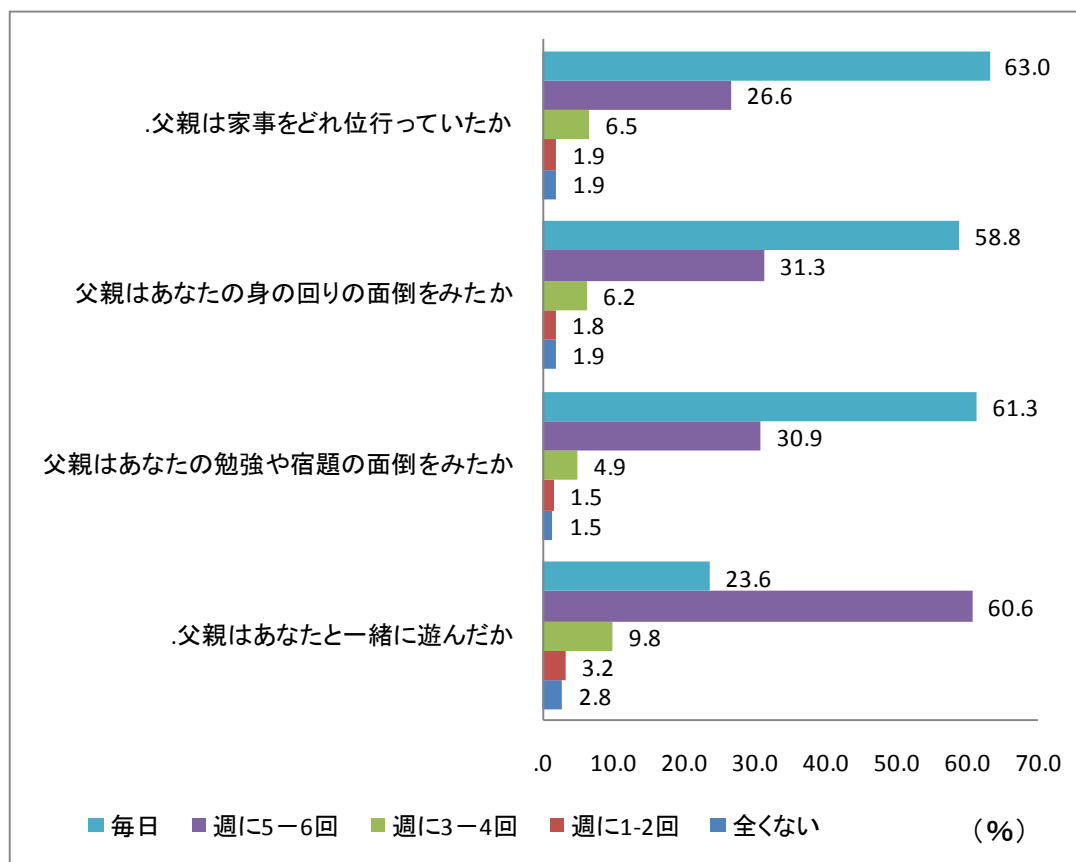
(1) 対象者の父親の家事・育児参加の状況

本調査では、対象者が家事や育児に参加する要因の一つとして、対象者自身の父親が、家事・育児に参加しているかどうかもあげられるのではないかとという仮説をもとに、対象者自身の父親の「家事・育児参加頻度」を質問した。質問内容は、以下の4項目である。

- ① 父親はあなたと一緒に遊んだか
- ② 父親はあなたの勉強や宿題の面倒をみたか
- ③ 父親はあなたの身の回りの面倒をみたか
- ④ 父親は家事をどれ位行っていたか

結果は、約6割の父親が、②～④について、自分自身の父親が子どもの世話や家事をしている姿を見たことがないという状況であることが明らかになった。一方で、父親に遊んでもらったという記憶はあり、①については7割の父親が、自分自身の父親を遊んだ体験を持っている。(図2-1)

図2-1 対象者自身の父親の家事・育児参加頻度 (%)



(2) 対象者の父親の家事・育児参加と対象者自身の家事・育児参加頻度との関係

① 「父親はあなたと一緒に遊んだか」と対象者自身の家事・育児参加頻度について

自分自身の父親と遊んだ経験が全くない人ほど、未就学児の父親では「子どもの食事の世話 (p<.001)」「子どもの着替えの世話や身支度の世話 (p<.001)」「こどもの遊び相手になる (p<.001)」(図 2-2)「子どもと一緒に風呂に入る (p<.001)」「子どものオムツやトイレの世話 (p<.001)」「本を読み聞かせる (p<.001)」といった今回質問した全ての子育て項目で、参加頻度を高く回答した者の割合が多いという結果だった。また、就学児では、「一緒に家で遊ぶ、過ごす (p<.001)」「一緒に家の外で遊ぶ (p<.001)」(図 2-3)「勉強や宿題、習い事の面倒をみる (p<.001)」といった項目で同じような傾向が見られた。このことは、対象者が父親になったとき、対象者自身の父親が反面教師になっていることが明らかになった。

図 2-2 対象者自身の「父親と一緒に遊んだ」頻度と対象者自身が「子どもの遊び相手になる」頻度との関係 (未就学児)

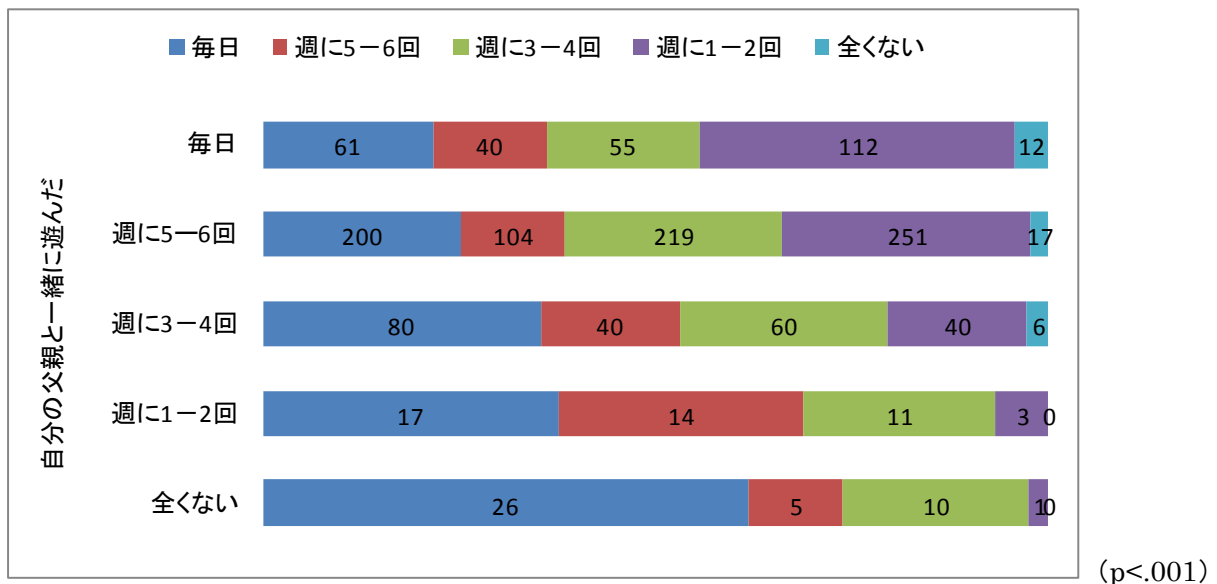
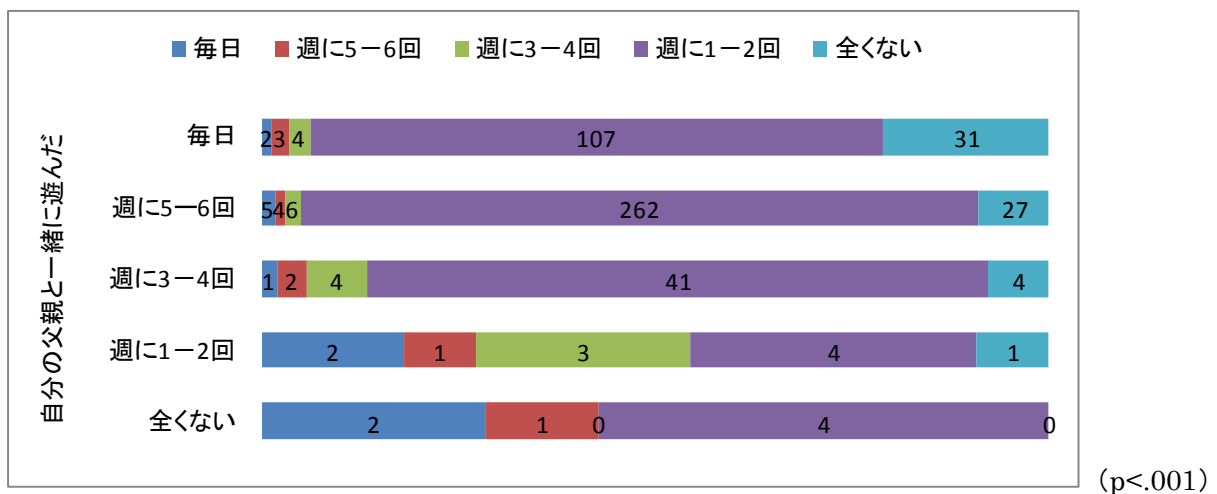


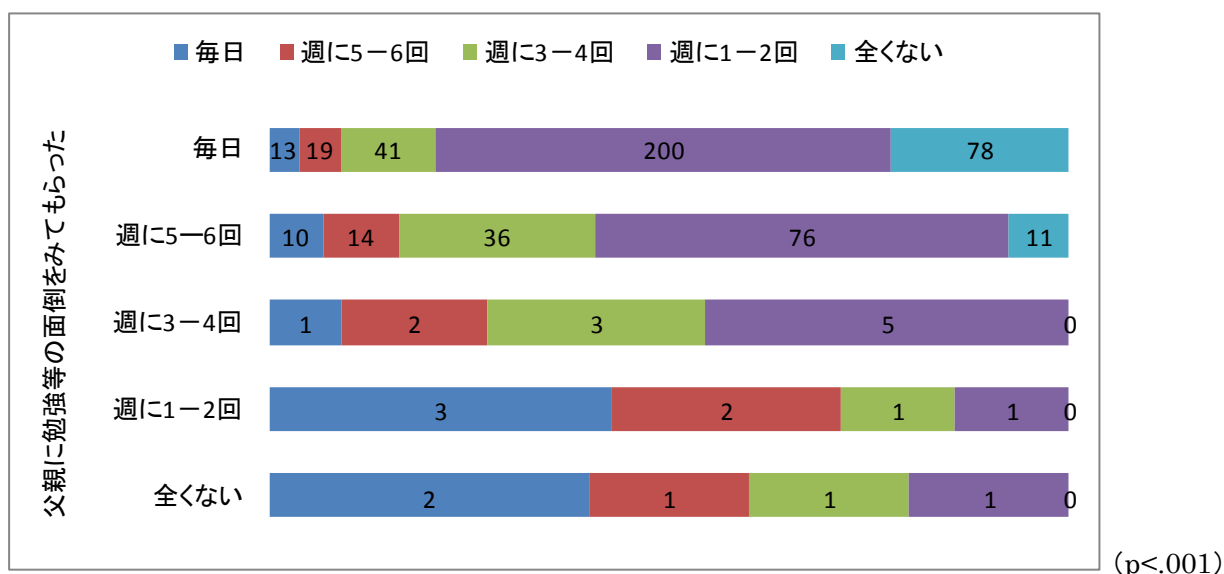
図 2-3 対象者自身の「父親と一緒に遊んだ」頻度と対象者自身が「一緒に家の外で遊ぶ」頻度との関係 (就学児)



② 「父親はあなたの勉強や宿題の面倒をみたか」と対象者自身の家事・育児参加頻度について

対象者が、自分自身の父親に勉強や宿題を見てもらわなかった人ほど、未就学児では、「子どもの着替えは身支度の世話をする (p<.001)」「子どもの遊び相手になる (p<.001)」「子どもと一緒に風呂に入る (p<.001)」「子どものオムツやトイレの世話をする (p<.001)」「本を読み聞かせる (p<.001)」といった子育ての参加頻度は高くなっており、就学児では「一緒に家で遊ぶ、過ごす (p<.005)」「一緒に家の外で遊ぶ (p<.001)」「勉強や宿題の面倒をみる (p<.001)」(図 2-4)といった子育ての参加頻度が高くなっている。この項目においても、対象者が父親になったとき、対象者自身の父親が反面教師になっていることが明らかになった。

図 2-4 対象者自身の「父親はあなたの勉強や宿題の面倒をみた」頻度と対象者自身が「勉強や宿題の面倒をみる」頻度との関係



③ 「父親はあなたの身の回りの面倒をみたか」と対象者自身の家事・育児参加頻度について
この項目についても、①、②と同様の結果であった。有意な関係があった子育て項目は、「子どもの食事の世話をする」「子どもの着替えや身支度の世話をする」「子どもの遊び相手になる」「子どもと一緒に風呂に入る」「子どものオムツやトイレの世話をする」「本を読み聞かせる」(ここまで未就学児／(p<.001))「一緒に家の外で遊ぶ」「勉強や宿題、習い事の面倒をみる」(就学児／(p<.001))である。

④ 「父親は家事をどれ位行っていたか」と対象者自身の家事・育児参加頻度について
この項目も、①～③と同様の結果である。有意な関係にある項目も、「子どもの食事の世話をする」「子どもの着替えや身支度の世話をする」「子どもの遊び相手になる」「子どもと一緒に風呂に入る」「子どものオムツやトイレの世話をする」「本を読み聞かせる」(ここまで未就学児／(p<.001))「一緒に家の外で遊ぶ」「勉強や宿題、習い事の面倒をみる」(就学児／(p<.001))といった、“世話”関連の項目である。

(3) 対象者の父親の家事・育児参加に対する評価

対象者自身の父親の家事や子育ての姿勢（参加の度合い）に関する評価を、「望ましく」思っている、から、「望ましく思っていない」という5段階で尋ねた。その結果は以下の図のとおりである。（図 2-5）また、自分自身の子育て参加頻度との関係については図 2-6「子どもの遊び相手になる」頻度に代表されるように、「望ましくない」が「望ましい」と同じ割合か多少割合が高いという傾向にあるが、「オムツはトイレの世話」「子どもと一緒に食事をする」(p<.05)以外の項目は有意な関係ではなかった。

図 2-5 自分の父親の家庭参加への評価

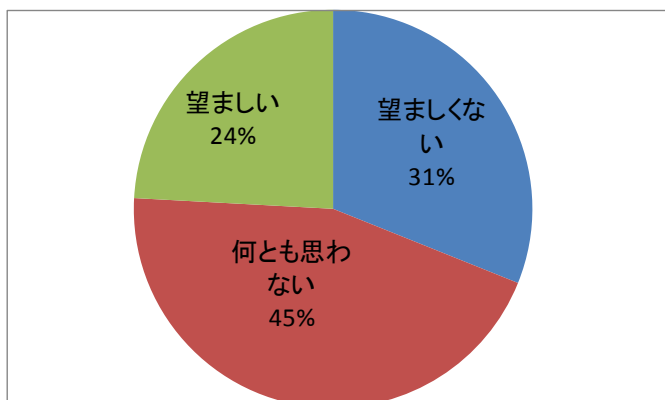
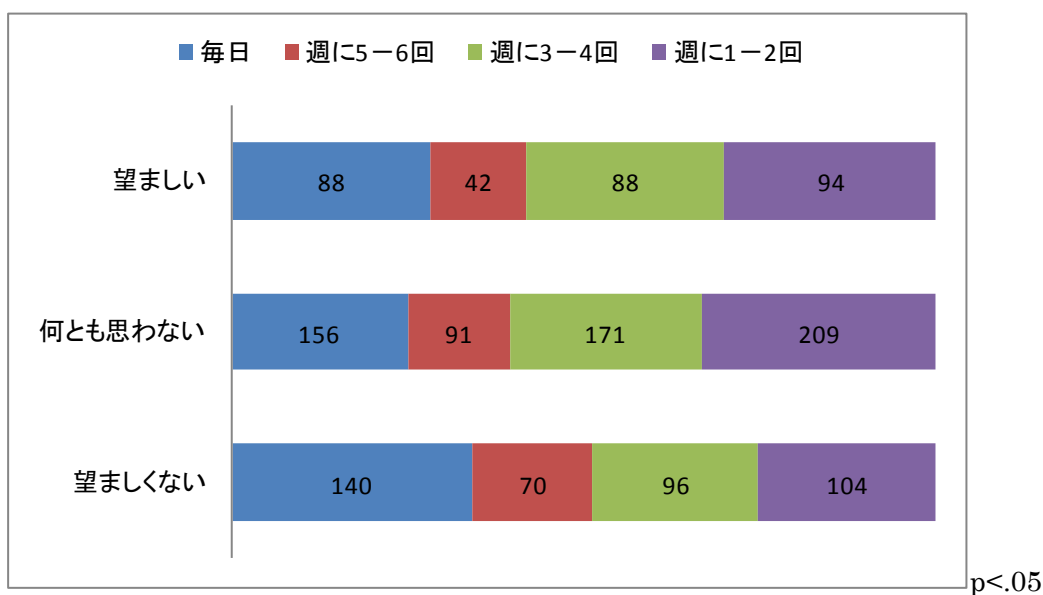


図 2-6 自分の父親の家庭参加への評価と自分が「こどもの遊び相手になる」頻度



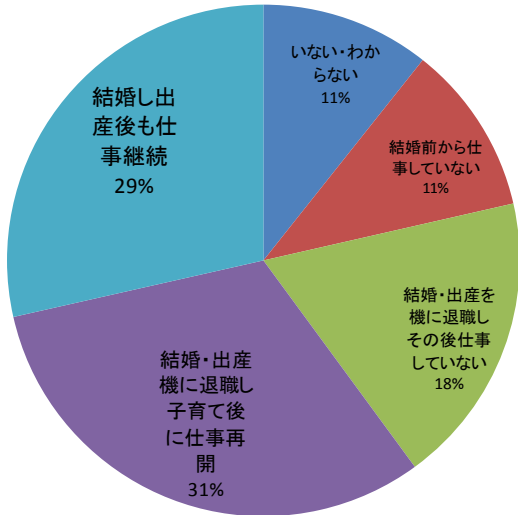
2. 対象者の母親のライフコースとの関係

(1) 対象者の母親のライフコースの状況

本調査では、対象者が家事や育児に参加する要因の一つとして、対象者自身の母親が、専業主婦であったか、あるいは、共働きであったかどうかの影響も考えられるのではないかという仮説をもとに、対象者自身の母親の実際の「ライフコース」を質問した。質問内容は、以下の5項目である。

- ① 結婚前から仕事をしていない
- ② 結婚・出産を機に退職しその後仕事をしていない
- ③ 結婚・出産を機に退職し子育て後に仕事を再開
- ④ 結婚・出産後も仕事を継続
- ⑤ いない・わからない

図 2-7 自分の母親のライフコースタイプの割合

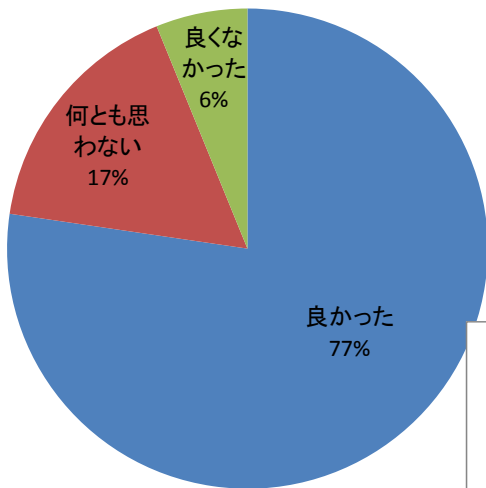


対象者が認識している彼らの母親の上記 5 タイプのライフコースの割合は図 2-7 の通りである。仕事をしていなかった母親が 3 割弱、再就職組も含めて仕事をしてきた母親は 6 割であった。

(2) 対象者の母親のライフコースに対する評価

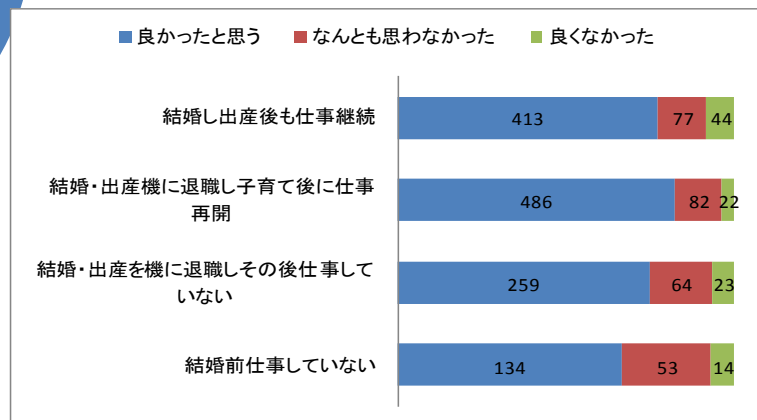
対象者が認識している彼らの母親のライフコースに対する評価も「良かったと思う」から「良くなかったと思う」まで 5 段階で尋ねた。その割合は図 2-8 のとおりである。

図 2-8 自分の母親のライフコースに対する評価



よかったと思っている男性がほとんどであったが、自分自身の母親のライフコースに対する評価は、図 2-9 にあるように、よく評価しようとしている様子がうかがえた。

図 2-9 自分の母親のライフコースと評価の関係



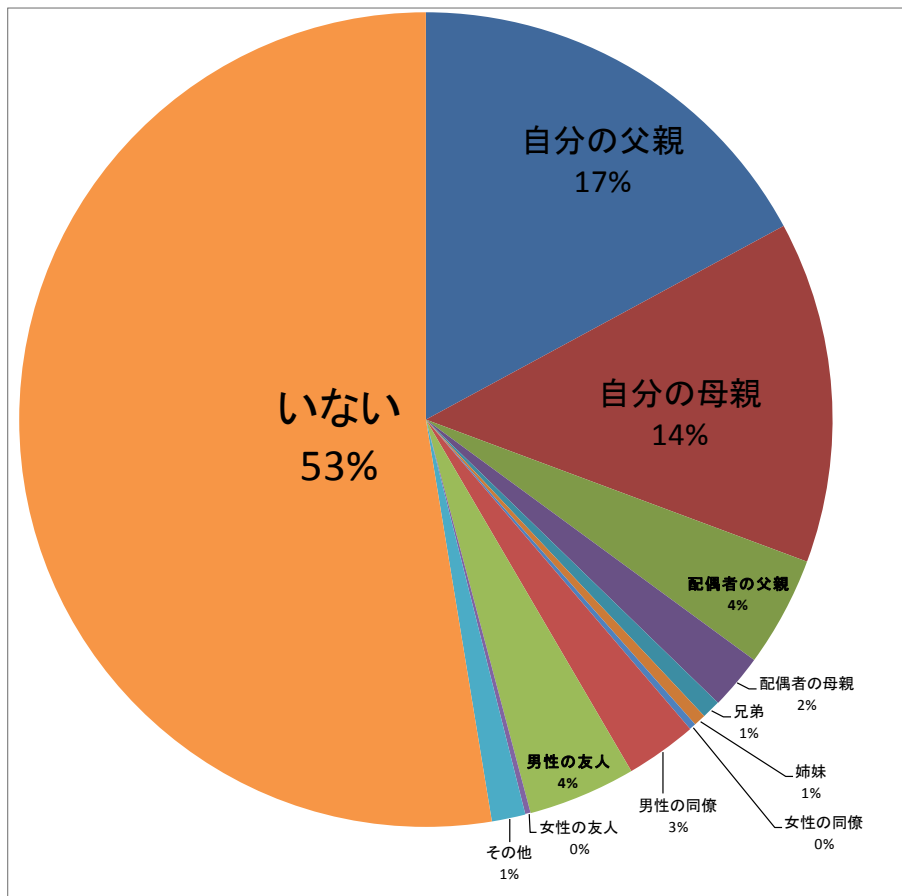
(3) 対象者の母親のライフコースと対象者自身の家事・育児参加頻度との関係

対象者の母親のライフコースと対象者自身の家事・育児参加頻度との関係は、概ね、自分の父親の家庭参加と自身の家事・育児参加頻度との関係と同じような傾向が見られた。自分の両親の生き方を批判的に思っている者は、反面教師として自分の両親とは違う生き方を選択していることが推測された。

3. 親としてのロールモデル

本調査は、12歳以下の子どもがいる共働き夫婦を対象としている。子どもをもったとき、親として誰を手本としているのかを尋ねた。(図2-10)

図2-10 ロールモデルとして選択した人々



ほとんどの回答者が「ロールモデルはいない」としている。また、自分の父親や母親を選択した者について自分自身の子育て参加頻度との関係をみても、ロールモデルによる相違は見られなかった。ロールモデルの差異は、子育て参加の頻度とは関係がなかったといえる。